

令和4年度 住まい環境整備モデル事業
【課題設定型・事業者提案型】
提案内容の概要

事業名称：シングルマザー向けシェアハウスの提供及び社会復帰支援事業

代表提案者：NPO法人ぎんともも
共同提案者：塩月 一男

1. これまでの取組

今から20年前、代表の野本は離婚し長男と2人で福岡市の母支援施設に1年、母子寮に入寮し半年から1年を過ごした。その後再婚し新たな子供も生まれ、マッサージ店の経営やセラピストの養成事業等を経て、有料職業紹介事業株式会社ワース及びお仕事情報株式会社を設立し代表取締役役に就任し、その後NPO法人ぎんとももを設立した。新型コロナウイルスの関係もあり、現状有料職業紹介事業の業績は低迷しているが、念頭から百道寮での経験や暖かい支援を受けた記憶を無くすことはなかった。シングルマザーに関しては「子育て・生活問題」「就業問題」「養育費確保問題」「経済的問題」以外にもDV問題やいじめ問題等根深い問題が山積しており、総合的な対策・支援が必要である。また有料職業紹介事業の求職者の中にもシングルマザーは存在しており、行政ではできないシングルマザーへの総合的な支援をビジネスとして展開し社会貢献したい、また地域貢献もしたいという思い、いつか百道寮時代に感じた恩や教訓等を何かのかたちで返したいという思いを消し去ることはできなかった。現在福岡市には百道寮と室見寮の2つの母子生活支援施設があり、それぞれ40世帯の受入れを行い3年間の入寮期間となっている。当法人の目標は「シングルマザー向けシェアハウス」の開設であり、その施設を中核に家事代行業や地域見守り事業を展開することで地域住民・高齢者への貢献も同時に展開するところにある。

2. 現状・問題意識

対象地域である太宰府市は、令和4年3月末日現在、総人口71,613人、総世帯数32,520世帯、年代別では、15歳未満14.25%、15歳以上65歳未満57.58%、65歳以上28.17%である。10年前から比較すると総人口数と総世帯数は、ほとんど変化はないが年代別では、65歳以上が約2%増加している。同市五条4丁目の空き家物件を活用して、子育て世帯がこの地域で継続して生活を営めるように、シングルマザーが地域居住の高齢者と共に社会生活を見守っていける課題（住居の確保・孤立の解消・就労問題の解消・地域コミュニティづくり）を設定し、入居対象者の住まいの安定性だけに限らず、総合的で継続可能な社会復帰を重視している。

本事業のシェアハウスまでのアクセスに細くて長い階段を使用することになるが、母子共に安全安心で毎日使用することができるように手摺りの設置を実施する。

3. 提案内容

提案内容 1

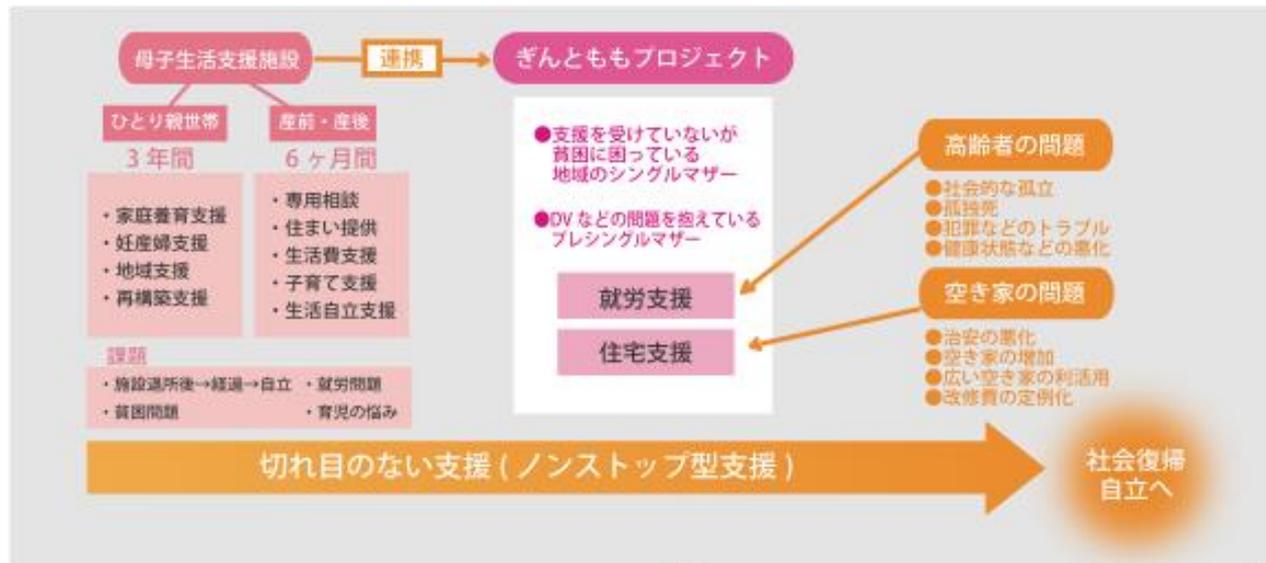
● ぎんとももプロジェクトが目指すもの

シングルマザーや高齢者の問題を、共に見守りあっていけるプロジェクト。

- シングルマザーの雇用推進
- 産前産後の特定妊婦
- 高齢者の見守り
- 住居の確保 (シェアハウス)
- 就労の確保



共に見守り、支えあえる。
そんな想いを込めている。



現状の保護、支援される期間内では、自立をするのが難しく、切れ目のないサポートをする必要がある中、入口や出口を整えるため、住居や就労の確保に取り組んでいたところ、新型コロナウイルスにより、母子の就労がなくなりました。シングルマザーに限らず、仕事を失った方が続々と現れた時、雇用がないならつくればよい！家がないなら、確保すればよい！と発起。

3. 提案内容

提案内容 2

● 問題を抱えている地域との出会い

空き家の問題、高齢者の問題を抱えており、新型コロナウイルスにより民生委員の方も動けず、孤立している

- 買い物の問題
- 身の回りの問題（ゴミ出しや掃除）
- コミュニティの問題

高齢者もシングルマザーも同じ、社会的孤立という問題を抱えていた。

就労の
問題

住居の
問題

育児の
問題

コミュニティ
の問題

▶ どうやったら高齢者とシングルマザーをマッチングできるのか

高齢者

人に迷惑をかけたくない
まだまだ元気だから大丈夫
見守りは、監視されているようで嫌だ

シングルマザー

私は営業なんてできない
資格も能力もない
社会復帰が不安

まずは、この考えを変えないといけない。そのきっかけを作ってくれるのが、見守り電球。
ICTを利用をする事で問題のマッチングが図れる。



3. 提案内容

提案内容 3

● このプロジェクトで目指すもの

安心できる住居を確保し、収入を得ながら、社会復帰のためのスキルを身につけて就職活動を行い、就職するまで、シングルマザーのお母さんたちの社会復帰を全面的にサポートする。



■モデルケース(例)



3. 提案内容

提案内容 4

- あらゆる貧困を解消する可能性を秘めたプロジェクト
 - 収入を得ながら社会復帰をするための、スキルを身につけて就職活動を行い、就職するまでのシングルマザーのお母さんたちの支援を行う。
 - 行き場のない母子の数少ない受け皿としての機能。
 - 単に住まいを提供するだけではなく、ケアの仕組み、働く仕組みを構築する。
 - 就労付き住宅を実現。
 - 地域とのコミュニティが生まれることにより、子どもたちの見守りが実現。児童虐待の発生予防・早期発見に繋がる。
 - 地域交流による、性教育・道徳教育の実現。
 - それぞれの社会的孤立の解消。

4つの問題を解消する可能性



4. 期待される効果

周辺地域の住環境への効果として、見守り電球プロジェクトの実施により、社会的に孤立している一人暮らしの高齢者いわゆる「独居老人」の日常生活の安定を期待している。また、定期的な電話での連絡で高齢者が抱えている問題（買い物や掃除等身の回り・コミュニティ・空き家）をシングルマザーと高齢者でお互い相談し合えるような住環境を期待している。

対象属性の住環境への効果として、社会的孤立は高齢者だけの問題ではなく、若いお母さん達も苦しんでいる現状があるので、見守り電球プロジェクト実施の中で、高齢者とお互い相談し合えるような住環境を期待している。また、本提案事業の施設を十分に活用して地域コミュニティの活性化を期待している。

シングルマザーを長期的継続的に支援するため、本事業で提案しているシェアハウスの退去後、新たな住居で新生活を開始するにあたり、保証サービスがある居住支援事業者への波及効果を期待している。

5. 検証方法

定量的な目的の設定として、シングルマザー11世帯の住居確保、入居者11名の就労問題の解決及び社会復帰支援、見守り電球の設置数30世帯と設定する。本提案事業の評価指標として、シングルマザー対策について、令和7年までに退寮したシングルマザーも含め、20世帯のシングルマザーの住居の確保・孤立の解消・就労問題の解消・地域コミュニティづくりと設定し、見守り電球設置者数は福岡県太宰府市五条の世帯数2,276世帯の5%113世帯と設定し、本提案事業の目的設定及び効果を検証する。

本事業は、シングルマザーには就業したいという想い、地域高齢者には見守りや生活支援のニーズがあり、双方のニーズをつなげる事業である。自治体等では縦割り行政のため、どうしてもシングルマザーの支援と地域の見守りは別の部署が担当することになり、双方のニーズを充足するのは難しい現実がある。本事業の場合は個々の地域特性・個々の想いを尊重して企画・推進する必要性があり、マスマーケティング的な企業活動にはそぐわず、支援の妥当性及び必要性を感じている。